



# アイヌの人たちと共に生きる 加賀 伝蔵

## 【指導事例 1】

### 1 主 題 「勤労の尊さ」〔勤労〕

### 2 ねらい

勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

### 3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、アイヌの人たちと共に生きた加賀伝蔵の姿を通して、勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする態度を育てることをねらいとしています。

前半では、羽後（現在の秋田県）から蝦夷地のクスリ（現在の釧路市）に移住した加賀伝蔵が、アイヌ語を独学で習得し、アイヌの人たちの信頼を得ていく様子に触れています。

後半では、蝦夷地で「疱瘡」という悪性の伝染病が流行した際、加賀伝蔵が、幕府の種痘を信用できなかったアイヌの人たちに対して「アイヌの人たちの命を助きたい」と訴え、多くのアイヌの人たちの命を救ったことに触れています。

指導に当たっては、アイヌの人たちと信頼関係を築くためにアイヌ語を学んだり、農業により、飢えに苦しんだアイヌの人たちの生活を改善したりするなどした加賀伝蔵の努力について、多面的・多角的に話し合い、勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して社会に貢献することについて深く考えさせることが重要です。

### 4 展開例—①「伝蔵のアイヌの人たちへの思いや行動を通して、勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献することの大切さについて考える展開」

|    | ●学習活動<br>○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応   | ・指導上の留意点（■評価）   |
|----|---|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティア活動や職場体験活動を振り返り、将来、自分が就きたい仕事について考える。</li> <li>○ 以前、ボランティア活動や職場体験活動を行ったとき、働くということについて、どのようなことを感じましたか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かのために働くということは、すがすがしい気持ちになることが分かった。</li> </ul> </li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのボランティア活動や職場体験活動を振り返り、働くということについて、自分の思いや考え、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。</li> </ul>   |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材「アイヌの人たちと共に生きる」を読み、話し合う。</li> <li>○ 伝蔵はどのような思いで、アイヌ語を学んだり、農業をはじめたりしたのでしょうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・この地で生きていくためには、アイヌの人たちとの共生が大切だ。アイヌ語を学んで思いを伝えられるようになろう。</li> <li>・自分のもっている農業の知識をアイヌの人たちのために役立てたい。</li> </ul> </li> <li>◎ 伝蔵の目に涙が光った時、伝蔵は、どのような気持ちだったのでしょうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな困難があっても、この地で働き、この地で生きるアイヌの人たちのためにがんばってよかった。</li> <li>・アイヌの人たちを病気から救うことができ嬉しい。</li> </ul> </li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間としての生き方について考える。</li> <li>○ 今まで、自分のためではなく、誰かのために働いたことがありますか。また、そのときのあなたは、どのようなことを感じましたか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が病気になったとき、食事をつくった。家族は喜んでくれたので、人のために働くことの心地よさを感じた。</li> <li>・ケガをした友達のかわりに、係当番をした。仕事が増えると思ったが、友達に感謝され、よいことをしたと思った。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝蔵が、人々のために働き、奉仕するときの気持ちを話し合い、人間理解を深めさせる。</li> <li>・伝蔵が、使命感をもち、自分の仕事の責任を果たそうとしているよさについて、多面的・多角的に話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。</li> <li>・働くことについて、自分の人間としての生き方を振り返り、自己理解を深めさせる。</li> <li>■ 勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献することの大切さについて、自分との関わりで、考えを深めている。</li> </ul> |
| 終末 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「メッセージ&lt;鈴木邦夫&gt;」（「私たちの道徳」P176）を読む。</li> <li>※働くことと社会貢献との関わりについて、自分なりの考えをまとめ、ワークシートに記入する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返りながら、社会に貢献しようとする態度が育まれるようにする。</li> </ul>   |

## 【指導事例 2】

### 1 主 題 「勤労の尊さ」〔勤労〕

### 2 ねらい

勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

### 3 展開例—②「アイヌの人たちと共に生きた伝蔵の姿を通して、仕事を続けていくために必要なことや、勤労の尊さや意義について考える展開」

### 4 主な学習活動

(1) 「仕事を続けていく」ためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- ・働きがいや、やりがいがあること。
- ・自分にとって、その仕事が適していること。
- ・給料が安定していること。

(2) 伝蔵はどのような思いで、アイヌ語を学んだり、農業を始めたり、種痘をしたりしたのでしょうか。

- ・自分のためにアイヌの人たちが、心を開いてくれた。この地で生きていくためには、アイヌの人たちとの共生が大切だ。自分がアイヌ語を学んで思いを伝えられるようになろう。
- ・自分のもっている農業の知識をアイヌの人たちのために役立てる方法がきっとあるはずだ。
- ・アイヌの人たちと築いてきた信頼をここで崩してしまうわけにはいかない。種痘の大切さを知ってもらい、アイヌの人たちを助けたい。

(3) 「仕事を続けていく」には、どのようなことが必要なのでしょう。

- ・自分が必要とされること。
- ・仕事の充実感を感じる。
- ・誰かの役に立っていると考えられること。

## □ 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

### ■ 社会科

公民的分野の国民の生活と政府の役割の学習において、自分の個性や才能を生かして働くことの大切さについて考える場面で、本教材を活用することを通して、勤労の社会的な役割について考えることができるようにする。

### ■ 特別活動（学級活動）

学級活動の望ましい勤労観・職業観の形成に関する学習において、実際に地域で働いている人へのインタビューを基にして、働く目的と意義や自分の将来の職業についてグループで話し合う場面で、本教材を活用することを通して、生きがいのある人生を築こうとする意欲を高めることができるようにする。

### ■ 総合的な学習の時間

職場体験の事前指導等において、本教材を活用することを通して、社会が様々な職業で支えられ、仕事が社会にどのように関わっているのかなど、勤労の意義を考えるとともに、仕事をテーマにして調べてまとめる学習活動への意欲を高めることができるようにする。

### ■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えるとともに、勤労の尊さや意義について家庭や地域で話し合ってもらおうよう依頼し、生徒の社会に貢献しようとする意欲を高めることができるようにする。

